

新春特集

「みなみぶらの」の2009年を振り返って

町民の皆さん、あけましておめでとうございます。昨年は、皆さんのご家庭や職場では、どんな1年でしたでしょうか。新春特集として、昨年の主な出来事を振り返ってみました。



1月

11日 昭和生まれ最後と平成生まれ最初の世代が成人を迎えた平成21年成人式



2月

2日 沖縄県本部町の児童15名が親善交流のため来町
14日 第32回町防犯と交通安全の住民集会
15日 第4回かなやま湖水上げかんす



3月

19日 南富良野町イトウ保護管理条例制定(4月1日施行)
各小学校・中学校・高校卒業式
保育所卒園式



4月

12日 なんぶエソカツカレー1万食達成
24日 五嶋富恭さん(落合)世界シニアカーリング選手権大会出場
各小中学校・高校入学式、保育所入園式
学校給食になんぶ～香房のパンを導入



5月

1日 特別養護老人ホーム「ふくしあ」1周年



6月

26日 レディース100年の森林業グループ内閣府主催「女性のチャレンジ賞」受賞
29日 町内の小学6年生25名と随行者4名が7月3日までの日程で、沖縄県本部町を訪問し親善交流
各地区でクリーン作戦、花いっぱい運動を展開
各地区で運動会、中学校体育祭



25日・26日 かなやま湖太陽と森と湖の祭典
2日間とも時折雨が降るあいにくの天候となりましたが、多彩な催しに町民や観光客などが多数訪れ、賑わいをみせました。

26日に行われた「第38回かなやま湖湖水まつり」では、子どもたちに大人気の「キャラクターショー」がステージ上で繰り広げられ、大きな声援が響いていました。



7月

9月



27日 フォレストタウン記念植樹祭
お誕生12世帯ご結婚1世帯が参加してヤマモミジの苗木を植樹
27日 「緑とエコ」サポーターネット
水源の森創造交流会

18日 第10回国際交流のかけはし
中国と台湾などから6名の留学生が来町しホストファミリー宅にホームステイしながら町民と交流

26日 町福祉スポーツ大会
30日 富良野アドベンチャーフェスティバル
イン なんぶ・かなやま湖開催
外国語指導助手レベッカルマンさん着任



8月

15日 幾寅中継局(NHK)デジタル放送開始
町内でインフルエンザ蔓延
各学校で学級・学校閉鎖相次ぐ



10月

11月



3日 町功労者表彰式
5日 下金山地区「交通死亡事故ゼロ15,000日」達成
7日 落合出身目黒萌絵さん
カーリング女子バンクーバー冬季五輪日本代表に決定
町子育て応援特別手当支給開始

1日 シレラ富良野本格稼働
23日 プロ野球日本ハムファイターズ交流事業・野球教室と記念植樹
24日 金山中継局デジタル放送開始



12月

「虎は千里行って千里帰る」も、虎は1日に千里行って、また、その千里を戻ってくる事ができるということから、一般的には「勢いの盛んなこと」のたとえとして用いられますが、別の解釈もあるようです。虎は何をしに、千里の道をあわてて帰るのでしょうか。

実は、虎は自分の子どもが心配で戻るのはないかということですが、恐ろしいものの代表のようにいわれている虎ですが、とても子どもを大切にしているそうです。

だれもが知っている「虎の子」という言葉も、このあたりからきたのでしょうか。「虎の子」は、虎が子どもを大事に守り育てるところから大切にしておきたいもの。秘蔵のものという意味。「虎穴に入らずんば虎子を得ず」も、虎の子が貴重なものという意味から、「虎の住む穴に入つて危険を冒さなければ、虎の子を捕獲することはできない」。つまり、身の安全ばかり考えていたのでは、目的を達成することはできないということなのです。

さて、昨年は皆さんにとって、どのような年だったのでしょうか。暮らしにかかわる出来事としては、新型インフルエンザの流行や、政権交代が挙げられますが、これらは、今年も大きな話題となりそうです。何事も、虎のように威勢よくいきたいところですが、子どもを大切に健康に過ごしたいものです。

今年寅年



2010年は寅年。虎は、十支の3番目、食肉目ネコ科の動物です。インドネシアや中国、ロシアやその周辺国に生息。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」といったところでしょうか。

日本列島に野生の虎はいませんが、虎は十二支の動物たちのうち、日本に棲んでいない唯一の動物です。もつとも、辰(竜)もいませんが、これは想像上の動物ですからどこにもいません。生きた虎が日本に来たのは、平安時代の890年といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸や大阪などを回っていたようです。

多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになってからです。しかし、虎はこわい動物と見られ、昔から親しまれていません。

虎は強いもの、恐ろしいもの、たとえによく使われます。「虎視眈眈」は、虎が獲物をねらって鋭い目でじつと見下ろすさまからきています。「虎の尾を踏む」は、極めて危険なことのたとえです。